



Kobe University Repository : Kernel

タイトル Title	名匠天野三吉に就いて(A Study on Craftsman Sankichi Amano's Masterpieces : Supplement)
著者 Author(s)	田草川, 善助
掲載誌・巻号・ページ Citation	海事資料館研究年報,30:7-9
刊行日 Issue date	2002
資源タイプ Resource Type	Departmental Bulletin Paper / 紀要論文
版区分 Resource Version	publisher
権利 Rights	
DOI	
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81005725

Create Date: 2017-12-07



名匠天野三吉に就いて

田草川 善 助

(1) 此の度、小樽から「船の科学館」に移された大家家の模型船両徳丸の一般公開に先立って横浜国立大学の池畑教授、同館の小堀部長、飯沼課長、筆者の4人が収蔵庫内の調査をした。結論は、天野の作品と思われるということだった。

その折、小堀部長の「北前船の里資料館」の広徳丸もこれとよく似ている」との一言が気になった。帰宅後「北前船の里資料館」の図録を調べると、広徳丸が勸業博覧会で受賞との記録があった。早速、加賀市教育委員会に問合せをしたところ第5回内国勸業博覧会に間違いのないとのことだった。

第5回内国勸業博覧会は、天野三吉の作品が大阪の木津川比石造船所名義で出品されたものであることは『明治前期産業発達史』に記述はあるものの、模型船そのものは所在不明であった。今回の調査で所在が判明した。

(2) そこで今までに判明している天野三吉の製作品について記述をしてみたい。

天野三吉は元治元年3月に大阪に生まれた。明治36年第5回内国勸業博覧会に大阪比石彦太郎名義で出品した模型船広徳丸が受賞した。当時天野は比石造船所の浜棟梁であった。明治38年に天野造船所を設立し独立した。筆者に天野家に関する情報を提供された故小須賀勝太郎氏が東京築地に有った工手学校（現工学院大学）を卒業し、天野造船所に入所したのは大正5年であった。この頃天野造船所の浜棟梁であった佐野川谷安太郎氏も独立した（現在のサノヤス・ヒシノ明昌の創業者）。

- 昭和5年 天照丸（神戸商業大学）⁽¹⁾
- 6年 天野造船所閉鎖
- 7年 日本丸（神戸海洋博物館）
- 9年 神国丸（北前船主の館右近家）⁽²⁾
- 11年 宝王丸（横浜国立大学）
- 13年 5月：天野三吉没

(3) 天野家は天保年間からの代々造船業の家柄で数多くの船を造っていた。昔の木津川筋は北前船を造る造船所が軒を連ねており天野はこういう地で成人した。

先年大阪で復元された「浪華丸」を建造するに当たって建造過程を調べる際「北前船の里資料館」にある模型船「広徳丸」もその候補の一つとなった。神戸商船大学松木名誉教授、東京大学安達教授、関西設計小島、井上両部長の4氏が調査を行った。⁽³⁾

安達教授は“広徳丸は紛れもなく天野の作品”と断定された。

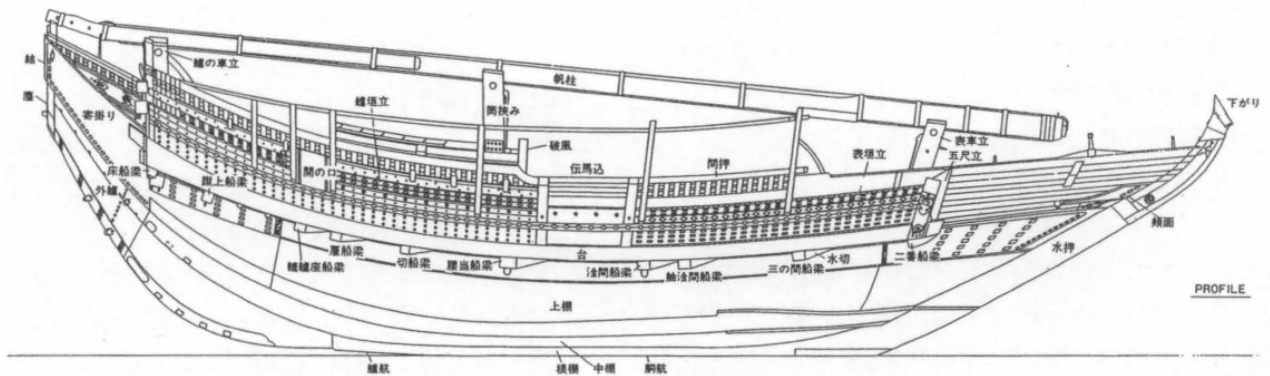
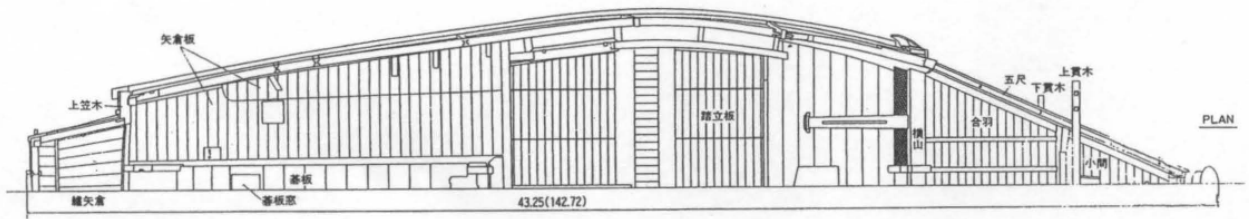
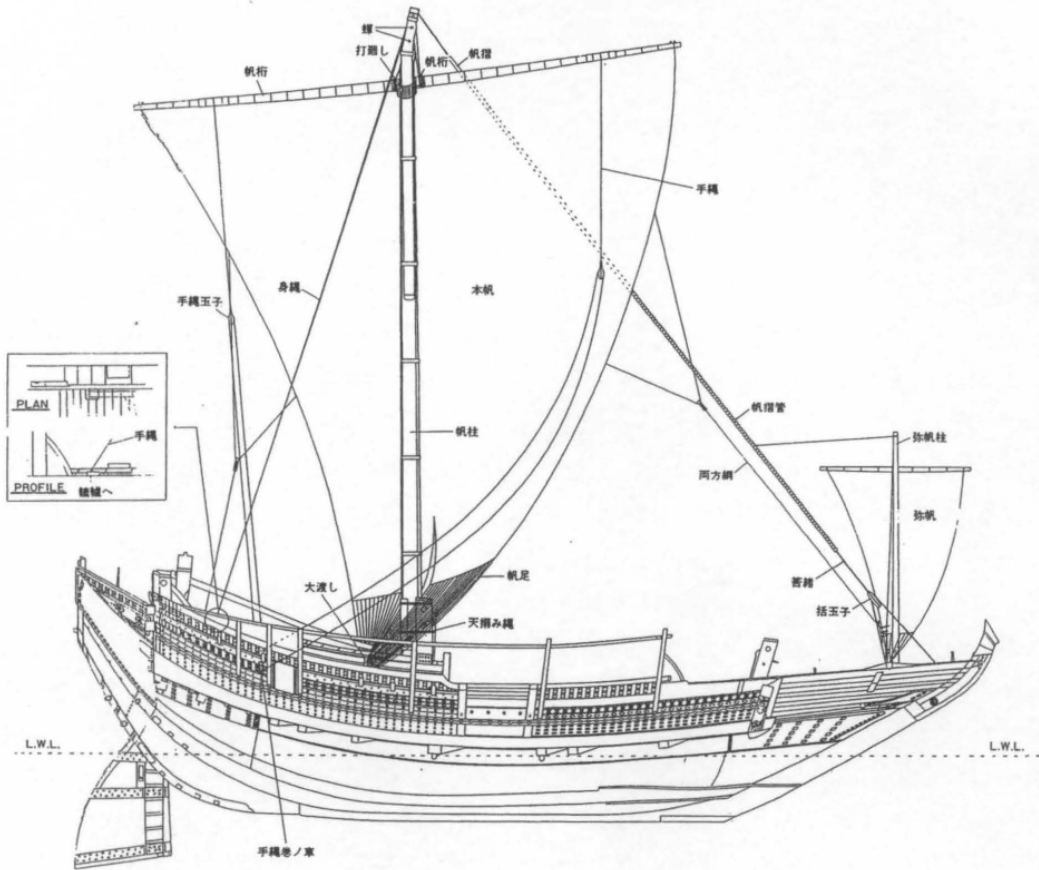
(4) 天照丸から宝王丸までの四つの模型船には、模型内部の踏立板の裏に製作年月日と大阪天野造船所 天野三吉と墨書されている。これは天野家に飾ってあった広徳丸の写真を見て、父が折にふれ他人名義で出品したことを悔やんでいたのを聞いていた養女故やエ氏（明治27年生まれ）が後年養父に内緒で書いたと思われる。念のため神国丸の墨書の写真を天野の孫に当たる故天野平蔵氏夫人に送って見ていただいた結果「姑の書かれたものと思います」との確答を得た。⁽⁴⁾

(5) 小須賀氏から大阪住吉神社の反橋（通称太鼓橋）も天野の製作と聞いていた。長さ20米、高さ3.6米、巾5.5米。昭和30年の架け替え工事の際、橋板以外の欄干その他は鉄管や鉄板に改造されていた。

この30年の工事は佐野安船渠株式会社が請け負っており、これ以前の橋は昭和3年に大阪宗右衛門町の“いも仙”こと茶車つね氏が奉納されたものと思われるが、橋の製作者は不明。神社側の記録にも奉納者の名は有っても、その製作者までではない。

造船屋が橋を造ることに奇異に感じる方もおられると思うが、戦前の旧造船協会で協同員として活躍された故西村真次文学博士は

資料「宝玉丸」帆装図



『日本古代の研究』でハシは或物の末端の義であるが、転じて両点間を連結するもので、即ちハシは彼此の両岸を連絡し、箸は膳の上と口との間を連絡し、口ばしは地上の餌と鳥の口とを連絡するものである。連絡するところの水上運搬具はこれを橋と云ってもよいと述べている。

現在でも大きな橋や歩道橋等は造船屋が多く製作する。大体曲線的なものは造船屋が製作する。

- (6) 筆者が天野の作品宝珠丸を初めて見たのは大学紛争後のことであった。その頃松木名誉教授にお会いして以来、天野の作品について現在まで数多くのことを教えられた。心から感謝致します。

天野家のことを総て知っていたと思われる天野家の養女ヤエ氏も昭和43年春には亡くなられている。

(追記)

掲載してある図面は、横浜国大の「宝珠丸」の実測図で、当時の設計研究室の宝田直之助教授の指導で平成3年3月卒業の遠山栄一、福島哲司両君による卒業論文「弁財船宝珠丸に関する一考察」の中の図面の一部である。

註

- (1) 神戸商船大学海事資料館年報No.7 (1979)

大和型模型船「宝珠丸」にちなみて

田草川善助 著

- (2) 神戸商船大学海事資料館年報No.18 (1990)

名匠天野三吉の作品をたずねて

田草川善助 著

- (3) この調査を実際行った関西設計の小島部長にたずねたところ模型船には作者名はどこにもないとのことであった。

- (4) 天野氏の作品には本人の書き込みは一切ない。

(元横浜国立大学講師)